

【一】次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかつこなどの記号も字数として数えます。（設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。）

日本列島に住んでいると、日常生活のうちでは、みどり豊かな環境に恵まれていることに気付かずにいる。

一九九七年に、わたしたちは全行程十四日をかけて、中国西北部のタクラマカン砂漠を一周したことがある。もちろん、※三蔵法師のようにラクダに乗って、ではなくて、砂漠の真ん中に建造された高速道路を車に揺られて、である。

その過程で、オアシスに住む人々に、彼らの生活環境について語ってもらったが、理想の環境を色にとえてもらったら、どこでも異口同音に、砂漠の環境は茶褐色であるが、わたしたちの①理想の環境はみどり豊かな場所である、だった。

望ましい環境の色は緑であり、その意味で、みどり豊かな二次的自然の※里地里山に囲まれている日本列島は、現代人にとって理想の生活環境なのである。もともと、コンクリートジャングルの都市集中でみどりに背を向けている最近の日本の傾向は別として、ではあるが。

※みどり豊かな環境とは何だろうか。里地里山を二次的自然と記しているように、こはネイチャーという言葉で示す自然は破壊された後の、人為がもたらした景観である。人と馴染み合いながら、何千年の月日を過してきた人の活動の場である。

しかし、そこにはまた人為の影響を受けた外来種（史前帰化植物などと呼ばれるように、文化の一環である歴史の文書に記録されるより前に、人の活動にともなって外から導入された生物たちも含めて）が多く見られるところでもある。植物学に特殊な話を拾い上げるなら、野生種と見られているもののうちに、人の活動の影響を受けて種形成されたものもあるらしいと、わたし自身が議論している種も見られる。

現在、人が理想の環境と考えるみどり豊かな場所は、自然環境そのものとは限らない。むしろ、③原生的な自然には、文明に汚染された人たちは何日も暮らすことはできないだろう。

わたし自身も、植物の調査のために、世界各地で原生林のなかに踏み込んだ経験が少なくない。原生的な自然の美に圧倒されることを喜ぶわたしなど、少々不便になら耐えることができるが、それでもテントのなかで雨風の悪天候に耐え、貧しい食事だけで暮らす生活は、期間限定だからできるようなものである。長期間のテント生活の後、格好だけでも屋根の下で、たとえば水だけでシャワーを浴び、虫などから解放され、貧しくても人間らしい食事にやっとなつた日には、人間としての生活にホッとするものである。

最近の学生のうちには、大学の野外実習で林のなかの小屋で一泊するとうとう、トイレのないところで暮らせません、と参加を拒否する人さえあると聞いたことがある。原生自然は、文化の洗礼を受けてしまった人にとっては、理想の生活環境ではなくなっている。

みどり豊かな環境というのは、人為的に維持された美しいみどりに囲まれた場所、を意味している。保全された原生の自然よりも、自分たちの好みに合わせてつくりあげられた自然つばい場所が望ましいと思っているのである。

ところで、みどり豊かな二次的自然（正確には疑似自然）であっても、人が近づきにくい原生自然であっても、自然をかたちづくる要素というべき野生種は豊かに生きている。多様な生き物が生きている場所は、生物の進化の過程でそのようにかたちづくられてきたものである。

その場所に、最近になって、特殊な文化をもつようになったヒトという単一の種が、科学技術を発達させ、自分たち種の繁栄だけを目的として、地球上の資源を※無謀に奪取する暮らしを展開するようになった。そのために、時間をかけて微妙なバランスを保つように進化してきた生物圏の構成要素である生物種の間、少しずつくちがいが生じている。生態系に見られるその変化が絶滅※危惧種の集計によって明らかにされているのである。

一種や二種の生き物が減びたからといって、それで生態系が甚だしく病むといわなくてもいい。しかし、いくつかの種が絶滅するという状態は、多くの種にそれなりの影響が見られることを示している。

微妙なバランスを保っているところへ、どかんと変化をもたらしたら、いったんは安定の状態に戻す力をもっていたとしても、最終的に反復して外圧を加える場合にはどうなるか。わたしたちは生態系の安定性がどの地域でどのように維持できるか、地球規模でどのような圧迫にまで耐えられるか、正確に予測するだけの基礎データをもっていない。

しかし、ある程度までは外部からの影響に耐えられたとしても、外圧が※閾値を超えれば、生態系は部分的に損傷されるだけでなく、全体として崩壊するにいたることを知っている。その閾値がいかにどこかを、科学は正確な数字で描き出すことができないとしても、である。

絶滅危惧種に※指標される生物多様性の※減失は、確実に生物多様性の現状に及んでおり、それが減少するどころか、地球規模でいえばむしろさらに進行し、拡大していることが示されている。ただし、④適切な行動を起こせば、まだ対策が間に合うらしいことを、最近四半世紀の日本列島の植物の※動態は教えてくれている。

もし、人類の繁栄を自分たちの世代だけのものにしたいというのなら、孫子の世代まで地球上の生物の多様性にもたらされる恩恵を※享受し続けたいなら、わたしたちの世代までの人類が犯してきた生物多様性に対する危害をこのあたりで押しとどめ、修復に目を向けるようにしないと、地球環境の明日は期待できない。

人為が地球を覆い、みどりがなくなってしまい、人は地下に未来都市をつくって人二の環境で人工の飲食性を楽しむようになる、という物語が展開されることもある。地球が住めない場所になるなら、宇宙にもっと美しい星を探して、人類がそこへ移住すればいいではないか、という物語が語られることもある。地球の未来に対して、さまざまな夢を描くことができるだろう。

しかし、ほんとうにみどりを抹殺して地下の未来都市で人類の繁栄は期待できるのだろうか。すべての人々が満足できるように、安全なエネルギーや食糧が、安定的に供給できるものだろうか。また、あるさとの惑星を汚染し尽くし、住めない場所にして、他の星に生活場所を求めるような人類だったら、その星もまた、瞬く間に駄目にしてしまい、永遠に宇宙をさまよう浮浪人になってしまうのが結末であることは見え見えだろう。

⑤美しい物語をつくることは結構かもしれないが、着実に自分たちの地球の上で安全で豊かな未来を構築する具体的な活動がまず必要であり、そのために、自分たちがよって立つ地球を、自分たちにとって望ましいかたちに維持することが最低限必要である。

（岩間邦男『桜がなくなる日』）

- ※三蔵法師：中国唐の時代の僧。
- ※里地里山：人間の生活に結びついた地域や山林のこと。
- ※無謀…先のこともよく考えず、乱暴に物事を行うこと。
- ※危惧…成り行きを心配し、おそれること。
- ※閾値…ある反応を起こさせるために必要な最低の刺激量。
- ※指標…物事の基準となる目じるし。
- ※減失…なくなること。
- ※動態…物事が動いて変化していくさま。
- ※享受…受け取って自分のものにするこ。

問1 Ⅱa～cの接続詞の働きを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 前の内容とあとの内容を対等に並べんことを表す。
- イ 前の内容と話題が変わることを表す。
- ウ 前の内容を言いかえたり、補ったりすることを表す。
- エ 前の内容と逆の内容や、くちがう内容が後にくることを表す。

a ☐

b ☐

c ☐

受験番号

二〇二〇年度 AⅡ選考

国語 その二

問2 ①「理想」の対義語を答えなさい。

問3 ②「みどり豊かな環境」とありますが、このことばを説明したものとして誤っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア みどり豊かな環境とは、里地里山のように人間と馴染み合うことでできた人の活動の場のことである。
- イ みどり豊かな環境とは、破壊された後に自然に発生した景観のことである。
- ウ みどり豊かな環境とは、自然環境そのものとは限らず、人工的に維持された自然のことである。
- エ みどり豊かな環境とは、便利な生活になってしまった人間が自分たちの好みに合わせて作り上げた場所のことである。

問4 ③「原生的な自然には、文明に汚染された人たちは何日も暮らすことはできないだろう。」とありますが、それはなぜですか。具体的に説明しなさい。

問5 ④「適切な行動」とありますが、具体的にはどのようなことですか。その答えとして適切な部分を四十字で探し、「こと」という形になるように抜き出して答えなさい。

問6 ⑤「美しい物語」とありますが、その内容が書かれている二文を探し、最初の三字をそれぞれ答えなさい。

問7 本文の内容と合致するものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 砂漠のオアシスに住む人々にとつての理想の環境は自分たちの生活環境とほぼ同じ環境である。
- イ 自然を求める人間は人の手で作られた環境に耐えられず、原生的自然を求めてしまうものである。
- ウ 人類の繁栄を長く続けていくためには、生物多様性を科学技術により実現していくことが必要である。
- エ 将来人類が地球以外の星に住んだとしても、同じようにその星を駄目にする可能性がある。

② 次のAからCの各問いに答えなさい。

A 次の①～⑤の文の□に入る植物に関する漢字一字を答えなさい。

① あの人□を割ったような性格だ。

② 道□を食わずにまっすぐ帰りなさい。

③ 昔話に□が咲き、時間を忘れてしまった。

④ それは□も葉もないうわさだよ。

⑤ まかめ□は生えない。努力しなければならないよ。

①	②	③	④	⑤

B 次の①～③の各文の□がかかっている部分を記号で答えなさい。

① ア体はおもむき、イ本を読くニ過す。

② 甲は私が執筆で見たニ教書はオ十部ノの一つだ。

③ ア山のイ向に突然とオ大なるエ飛機が現れた。

①	②	③